

県と県統計協会の「第60回県統計グラフコンクール中学生の部」で、屋代高校付属中学校の1年生6人が入賞した。「外食からわかる祖父父母の偉大さ」「捨てられた犬と猫はどうなるの?」。いずれも、生徒自ら設定した身近なテーマを統計の知識やグラフを活用して分析し、分かりやすくまとめている。

佳作に入った會根愛は、さっぱりした大根結さんのテーマは「中おろしの味付けが人気山道確水峠の力餅による現代人の好み」。軽井沢町で実家が経営する餅店の来店客約2000人を美感したという。

人に好きな商品などを聞くアンケート調査を行い、結果を円グラフや棒グラフにして、「現代人は甘好みで、濃い味が好き」と分析した。會根さんは「調査前17点の中学生の部で

は、青木祐人君と渡辺なる美さんも佳作に入ったほか、3人が努力賞を受賞した。

同校は、入賞者の多

各種コンクールで受賞 評価が探究心高める



力を入れてきた成果が早くも表れたようだ。統計調査だけでなく、生徒たちが夏休み中に取り組んだ研究も、別のコンテストで好成績を収めている。国立極地研究所の協会の「県発明くふう展」では、理科の知識を活用して「自動水やり機」を作った塚田龍虎君が県知事賞を受け、別のコンテストで入賞した。協会の「県発明くふう展」では、理科の知識を活用して「自動水やり機」を作った塚田龍虎君が県知事賞を受け、別のコンテストで入賞した。

国立極地研究所の理科の教科書に載っ

と喜ぶ。の評価が生徒の探究心を高めると指摘す

い学校に贈られる優秀校の一つにも選ばれた。大学教授を招いた講演会や数学の授業などを通じて統計教育に

「中高生南極北極科学コンテスト」では、北極と日本での流星の見え方の違いについて考察した是永京子さんの提案が、県内中学生として初めて最高の北極科学賞を受賞。県発明戦したかいがあった」加を進める考えた。

数学の授業。生徒たちは学んだ知識を調査や研究に成果を出し始めている